

(対象事業：先進的な展示・教育普及手法の開発等の事業 )

## 事業名：八郎潟干拓事業を次世代に伝える教育教材開発事業

事業者：八郎潟干拓事業教材開発委員会  
連携事業館名：

住所：秋田県南秋田郡大潟村字西 5-2

TEL：0185-22-4113

FAX：0185-22-4115



### ①施設概要

日本最大の干拓事業「八郎潟干拓」を記念し、八郎潟干拓の歴史、干拓及び村存立の意義を後世に伝えるとともに、全国から入植した人々の営農と村づくりを紹介した博物館。平成12年4月に開館、平成12年8月に博物館登録。干拓地大潟村の農業・環境・芸術文化を広く紹介するとともに様々な教育普及活動を行い、文化交流と情報発信を行っている。

### ②事業の意図目的

秋田県大潟村は、日本第2の湖であった八郎潟を干拓して昭和39年に誕生した新しい村である。昭和42年度からの入植事業により、全国から589名が入植し、ゼロから村づくりが行われてきた。15,666haもの広大な干拓地がかつての湖の底に造成され、その地に単独の自治体が発足したのは全国でも大潟村だけであり、現在も農村の新たなスタイルをめざし、村づくりが進められている。しかし大潟村では世代交代が急激に進み、干拓事業の意義、八郎潟干拓事業の様子、草創期の村づくりと営農について、意識や関心が希薄になりつつある。

この教育教材開発事業によって国営八郎潟干拓事業や村の歴史に関する映像・画像・資料を整理し、デジタル化を行い、小中学校の学習教材及び生涯学習の教材を開発し、積極的に活用を図り、後世に永く干拓事業及び村の歴史を伝えてゆくことを目的とする。併せて、干拓事業を通じ、日本の農業や環境の未来を考える視点を醸成することを目的とする。

### ③事業概要

上記の目的を達成するため、本事業により以下の3教材の開発と製作を行い、学校教育・生涯学習両分野で活用を図る。

#### 1. 八郎潟干拓事業記録映像DVD

干拓博物館所蔵の映像資料「大地生まれる」「新生の大地第1～6部」について、DVDへの媒体変換を実施し、学校教育及び生涯学習分野において活用を図る。

#### 2. 創村後の村の歴史記録DVD

村の変遷を各種映像・画像・文献資料を交えて紹介する教材を開発・制作する。制作にあたっては、地域住民の参画と協力のもとで実施する。

#### 3. 干拓事業資料CD-ROM

干拓博物館所蔵の干拓事業計画等の文献資料について、マイクロフィルム撮影後、デジタル化を行い、閲覧を可能にする。

#### ④事業の製作物及び報告書等

##### 1. 八郎潟干拓事業記録映像DVD

- ・大地生まれる 八郎潟干拓の記録 (DVD)
- ・新生の大地 第1部 (DVD)
- ・新生の大地 第2部 (DVD)
- ・新生の大地 第3部 (DVD)
- ・新生の大地 第4部 (DVD)
- ・新生の大地 第5部 (DVD)
- ・新生の大地 第6部 (DVD)
- ・八郎潟干拓事業記録映像の概要

##### 2. 創村後の村の歴史記録DVD

- ・秋田県政ニュースDVD
- ・大潟村歴史記録DVD
- ・収録映像・画像目録

##### 3. 干拓事業資料CD-ROM

- ・八郎潟干拓資料CD-ROM
- ・収録資料目録

#### ⑤参加者状況

教材開発・制作の過程で関わった村民・関係者の人数とする。

##### 1. 大潟村案内ボランティア学習会での手記のとりまとめ

会員 23 人、学習会 8 回実施、のべ約 100 人参加

##### 2. 制作映像の先行上映

定例教育委員会	8 人
干拓博物館協議会	12 人
耕心会総会	80 人
案内ボランティア学習会	のべ 35 人
合計	135 人

### (1) 事業の実施状況について

事業実施期間は平成16年6月1日から平成17年3月31日までであったが、地域住民とともに教材を作成する関係上、直接協働ですすめる作業が農閑期にあたる12月から3月という非常に短い期間に限られてしまった。それまでは館収蔵資料の整理と作業の準備に充てた。

#### 1. 八郎潟干拓事業記録映像DVD制作

館収蔵映画のうち(株)日本映画新社制作の記録映画7本について媒体変更と上映の許可を得た後、県内の代理店を通じ、16mm及び32mm映画フィルムからDVDへの媒体変更を行った。2月に最初の成果物(試作版)が納品され、大潟村案内ボランティア学習会、定例教育委員会、干拓博物館協議会で上映した。その結果、多くの映像を1枚のDVDに集約させるよりは、映画ごとに独立したDVDとしたほうが使いやすいことから、若干の修正を行い、それぞれ1種の映像が記録されたDVDとして納品していただいた。

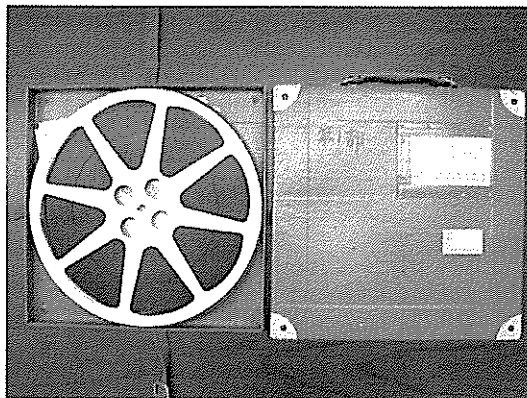


写真1：記録映画16mmフィルム

#### 2. 大潟村歴史記録DVD制作

このDVDに収録されている映像・画像は、県公文書館所蔵の「秋田県政ニュース」及び館・個人所蔵の写真・文献資料である。映像については元媒体から県公文書館の複製・利用の許可を得た後、県指定の代理店を通じて複製を行い、当館でデジタル化した。写真や資料はネガフィルムまたはプリント写真をスキャニング(300dpi)によりデジタル化し、サイズや色調の補正を行った。

この記録DVD制作は基本的に全部自前で、Macintoshコンピュータを用いて行った。映像についてはS-VHSビデオデッキからデジタル変換器を通してMacintoshに入力後、Apple社のiMovieを用いて必要な部分の切り出しを行い、ムービーとして書き出した。写真や資料についてはスキャニング後、Adobe社のPhotoshopでサイズや画像・色調調整等の前処理を行った。写真や資料については特定のテーマについてスライドショー形式で上映できるようにするため、テーマごとに写真や資料の振り分けを行い、Microsoft社のPowerpointで写真や資料にキャプションをつけてスライドショーを制作した。完成したスライドショーはムービー形式で書き出した。入植者の手記についても同様な作業手順で実施した。

入植者の手記については、干拓博物館を中心に活動している「大潟村案内ボランティア」の学習会を通じて、具体的な手記のとりまとめを行った。案内ボランティアの学習会は12月から3月までのべ8回行われた。各回とも特定のテーマ(例えば入植の動機など)館収蔵の写真や資料を用いて歴史を振り返り、自由にお話しする座談会形式で昔の様子を思い出してもらい、それを手記として書いていただいて、写真や資料とともにスライドショー化・ムービーへの書き出しを行った。

完成したムービーファイル1つ1つがDVDのコンテンツとなる。DVDへの書き出しはApple社のDVD studio pro 2を用いて行った。プレーヤーやパソコンにDVDを挿入後、画面に映像・画像メニューが現れ、リモコンやマウスの操作で好きな映像を鑑賞できる形とした。

なお、実際の作業にあたっては、干拓事業や村の歴史を若い世代に伝える趣旨の事業であることから、外部に委託することなく、あえてパソコン操作や画像・動画処理に堪能な村民（農業後継者）に賃金を支払い、一緒に作業を行う形ですすめていった。

### 3. 干拓事業資料CD-ROM制作

当館ならではの収蔵資料のうち、劣化がすみずみ損傷の可能性があることから、利用者の閲覧に供することができない資料をマイクロフィルム撮影後デジタル化し、1枚のCD-ROMに収めた。具体的な作業は県内で実績のある業者に委託した。Windows98以上のOSのコンピュータで閲覧できる形とした。

#### （2）地域との連携について

大潟村干拓博物館では平成12年の開館当初から、地域住民との連携と協働により企画展示や教育普及事業が行われてきた。今回の事業も振り返れば、入植者である地域住民の方々や干拓博物館協議会委員が「八郎潟干拓地の歴史を後世に伝える」一環として博物館に提言されてきた事業内容であり、今回、文化庁のご支援により実施できたものである。

具体的な連携・協働については、以下の4項目に集約できる。

#### 1. 八郎潟干拓事業教材開発委員会

学校教育・生涯学習関係者及び村民が関わり、「八郎潟干拓事業教材開発委員会」を組織し、地域ならではの歴史文化資源を後世に伝える手法を検討した。本委員会の目的は、「八郎潟干拓事業及び大潟村の歴史資料を活用し、学校教育・生涯学習両分野における教育教材を開発して後世に永く歴史を伝える」ことであり、具体的に「村の歴史に関する資料の収集整理と調査研究」「資料の教育分野への活用と教育教材の開発・制作」を行う。委員は教育長、教育次長、大潟小学校長、大潟中学校長、社会教育主事、干拓博物館協議会会長・副会長、大潟村案内ボランティアの会会長・副会長、干拓博物館学芸員で構成されている。

#### 2. 大潟村案内ボランティアとの協働による手記のとりまとめ

大潟村案内ボランティアは発足3年目、現在会員21名で活動し、昨年度は50団体・グループ、約1500人を対象に、博物館を中心に村内全域でガイド案内を行っている。日頃よりガイド案内を通じて、大潟村の歴史や現在農業・環境の状況、入植者の思いなどを来館者の要望に応じて多角的に紹介している。地域住民が地域の歴史を自ら紹介し、後世に伝えることができるよう、入植者の直接の気持ちや伝えたいことを、案内ボランティアの学習会（12月～3月に8回、各2時間実施）を通じてテーマごとにまとめ、紹介することができた。

### 3. 農業後継者が資料のデジタル化・DVD制作に従事

歴史記録DVD制作の実際の作業において、干拓事業や村の歴史を若い世代に伝える趣旨の事業であることから、外部に委託することなく、あえてパソコン操作や画像・動画処理に堪能な村民（農業の後継者）にお願いし、賃金を支払い、一緒に作業を行う形ですすめていった。今回の事業の趣旨を十分に理解し、そして情熱をもって作業をすすめていただくことができた。

### 4. 先行上映

2月に記録映画の成果品（試作版）が納品され、2月定例教育委員会、干拓博物館協議会、大潟村案内ボランティア学習会、耕心会（農業者年金受給者の会）総会・研修会で事業の趣旨を説明し、先行上映を行った。その結果、「ぜひ子どもや孫に見せたい」「教育の現場での活用を」「入植時の初心を改めて思い出した」「村内外の様々な立場の人に見せてお話ししたい」「村民に広く周知を」「博物館で常時上映しているのか」などの声が寄せられた。

これらの要望を受け、本事業については村内全戸配布される3月発行の「大潟村干拓博物館だより」において、事業の取り組みと成果品について詳細に取り上げた。そして新年度から、記録映画は土日祭日には時間を決めて上映、平日は来館者の要望に応じて上映する形とし、ほかのDVD・CD-ROMも来館者の要望に応じて閲覧・鑑賞できる形とした。

#### （3）成果物について

##### 1. 八郎潟干拓事業記録映像DVD

八郎潟干拓事業記録映像DVDについては、7本の記録映画をデジタル化することができた。



写真：完成した記録映像 DVD

##### 2. 大潟村歴史記録DVD

八郎潟干拓及び大潟村が取りあげられた映像と写真、入植者の手記をスライドショー形式で書き出し、「秋田県政ニュースDVD」「大潟村歴史記録DVD」の2枚にまとめることができた。映像については、「秋田県政ニュース」映像17種を収めることができた。また、「大潟村歴史記録DVD」では、収録写真はスライドにしてのべ383枚分、手記については3種のテーマでのべ18人分であった。



写真：制作した DVD

### 3. 干拓事業資料CD-ROM

館収蔵の干拓事業資料を17種に分けてマイクロフィルム撮影・デジタル化し、CD-ROM1枚にまとめることができた。これにより、当館ならではの貴重な文献資料について、資料を損なうことなく閲覧が可能となった。



写真：マイクロフィルムと CD-ROM

#### (4) 参加者の反応

各種委員会や研修・学習会での先行上映の間では、「ぜひ子どもや孫に見せたい」「教育の現場での活用を」「入植時の初心を改めて思い出した」「村内外の様々な立場の人に見せてお話ししたい」「村民に広く周知を」「博物館で常時上映しているのか」などの声が寄せられた。また、農業後継者からは「初めて見た」との声が聞かれた。案内ボランティアを務めている入植者から後継者に対し、「あなたや孫たちのためにこの記録を残したのだから、ぜひ見てほしいと伝えた」との声もあった。

手記のとりまとめにおいては、案内ボランティアの学習会で行ったのは今回が初めての試みであり、併せて館収蔵の写真や資料を活用したことで「忘れていたことが思いだされた」「これだけは伝えたい、と思って書いた」「もっともっと書きたいことがある」などの声が寄せられた。今後、実際にガイド案内の場で、自分たちが関わった今回の教材を用いた案内が期待される。

#### (5) 芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

「映像」という形で干拓工事及び村の草創期の様子の紹介が可能となり、入植者である村民が、干拓事業及び入植直後に直面した様々な課題・問題についてふり返し、再認識することが可能となった。そして入植世代自らが、自分たちが創った歴史を子や孫に伝える意識が醸成できた。併せて大潟村への入植者自らが、入植者の視点で自分たちが創った村の歴史を学び、とりまとめを行ったことで、主体的に村の歴史を学ぶ意欲が育まれ、そして多くの人々に干拓地大潟村の歴史を紹介することの意義と魅力・楽しさを伝えることができた。また制作にあたって、入植者の後継者と作業を行っていることが広く村民に知られるところとなり、父母が関わってきた村づくりの歴史について、博物館と後継者が協働でとりまとめを行うというスタイルが住民に理解された。

今後、博物館資料やデジタル化した教材を一層整え、これらを利用することで、大潟村を舞台に、村民と来村者とのあいだで、「干拓地の歴史」「干拓地の農業」「干拓地の自然環境」など、様々な文化資源を有機的に活用した交流が促進されることが期待できる。